学校を災害に立ち向かう拠点に

～大森第三中学校で学校防災活動拠点訓練を実施～

平成25年12月15日（日）大森第三中学校で学校防災活動拠点訓練が実施されました。山王三丁目町会・中央一丁目町会・中央四丁目町会の代表のみなさん32名を中心に、大森第三中学校の先生や区職員等が昨年６月から５回にわたる会議を行い、訓練内容を話し合いました。訓練当日は各町会からのみなさん、大森第三中学校の教職員（10名）・生徒（73名）・PTA（５名）のみなさん、区職員（８名）等、合わせて200人近くが参加しました。訓練の前半では防災に関する講話を参加者全員で聞き、後半では実際に地震が発生した、という想定で防災活動拠点の運営訓練を行いました。

１．防災講話

大田区被災地支援ボランティア調整センター事務局長の小野紀之氏をお招きし、東日本大震災の被災地におけるボランティア活動体験をもとにお話しをしていただきました。ニュース等では報道されなかった被災地で実際に起きていた出来事や、災害時におけるボランティアの役割について、現場の生の声を伺うことができました。

講話のポイント

①被災地支援で得た経験は大田区で災害が発生した際、区民の命を守る大きな力になります。現地では小さな、でも貴重なアドバイスがたくさんありました。

②災害の現場では与えられた条件の中で自分たちに何ができるか考えて行動することが大切です。

③今回の訓練は、従来のように準備されたプログラムにそって動くのではなく、参加者自身の判断と行動力で運営されます。

失敗しながらでも自分に何ができないか、分からないかを知ってもらえれば大きな成果ではないでしょうか。

２．防災活動拠点の運営訓練

【休日の午前９時55分に地震発生】という想定のもと、防災活動拠点本部（地域の代表者、学校長等で構成）からの指示により総務・情報班、避難所運営班、給食・物資班、要援護者支援班、地域活動班に分かれそれぞれ訓練を行いました。

各班には様々な役割が割り振られていますが、今回は以下の役割について訓練を実施しました。

総務・情報班

（1）本部の運営補助
（2）災害の情報収集・取りまとめ、
　各班への指示・伝達、避難所への情報掲示
（3）学校施設の安全点検、立入禁止区域の掲示など

▲本部会議開催

▲情報収集の取りまとめ

▲立入禁止区域の掲示

避難所運営班

（1）避難者の受付・誘導・指示
（2）避難所の設営
（3）避難所ルールの周知
（4）仮設トイレの組み立て
（5）災害時特設公衆電話の設置など

▲受付（避難者カードに記入）

▲体育館に毛布を敷きつめ避難所を設営

給食・物資班

（1）アルファ化米の炊き出し・配給　（2）受水槽の給水確認
（3）雨水井戸からの生活用水の運搬（バケツリレー）など

▲アルファ化米の炊き出し

▲バケツリレー

要援護者支援班

（1）要援護者の受付・支援・誘導
（2）医療救護所（入新井第二小学校）・
　福祉避難所（新井宿福祉園）への移送など

▲要援護者を車イスを押して移送

▲受付（要援護者支援調査票に記入）

地域活動班

（1）防災備蓄倉庫の資材確認
（2）在宅避難者に対する食料の配布
（3）まち歩きを通して地域災害情報の収集など

▲備蓄倉庫

＊三中生が大活躍！＊

大森三中で希望者を募ったところ、予想を大きく上回る73名の生徒さんが訓練に参加してくれました。初めての訓練参加ということで当初は戸惑っていた様子でしたが、先生や各班の班長・副班長の指示の下、きびきびと活動を開始。自分の役目や仕事内容を理解してからのスピードは大人顔負けでした。短時間で広い体育館に避難所を設営したり、仮設トイレを作ったり、本当に頼もしい活躍ぶりでした。避難者役の方の受付や対応をした生徒さんからは「地域の人とお話することができて良かった」という嬉しい声も。

訓練をきっかけにしたこんな人と人とのつながりが災害時には大きな力を発揮してくれるでしょう。

▲仮設トイレ組立▲

▲要援護者を車イスを押して移送

▲在宅避難者に食糧を配布

今年の2月6日には訓練の反省会を実施しました。訓練をやってみて分かったこと、改善する必要があること等について活発な意見が交わされました。今後はそれらの意見を反映したマニュアルを作成し、災害時に備えていきます。

平成26年度は山王小、入二小、入四小でも学校防災活動拠点事業がスタートし、今回と同様の訓練が実施される予定です。それぞれの地域や学校の特性を活かした「災害に立ち向かう拠点」づくりにみなさんも参加してみませんか？

受賞おめでとうございます

（敬称略）

区政功労者賞

◇介護認定審査会委員10年以上：　宇井　忠公

◇自治会・町会（副会長）10年以上：

岩澤　進吾　　平林　宏一

◇区立学校医10年以上：　井上　清

経済産業省所管統計調査功労統計調査員及び功労調査員に対する感謝状　間宮　章夫

入四ランナーズ・山王スターズ 優勝・準優勝

昨年11月2日～3日に、葛飾区・柴又野球場で行われた平成25年度東京都小学生秋季ソフトボール大会で、入四ランナーズが優勝、山王スターズが準優勝に輝きました。その結果、両チームともそれぞれ今年行われる全国大会への出場を決めました。これからも地域の皆さんで、両チームを応援していきましょう。また、両チームとも部員募集中です。

優勝：入四ランナーズ

準優勝：山王スターズ

新井宿五丁目町会 「たき火で焼き芋」を開催

平成25年11月24日、入二小学校校庭で新井宿五丁目町会の行事「たき火で焼き芋」が行われました。入二小学校、入二小校外委員、雷親父（らいふ）倶楽部の皆様の協力を得て、ブロック造りの囲炉裏にアルミホイルで包んださつま芋やジャガイモを入れ焼き上げました。子供達の一番人気は、自分の手で長い串の先にマシュマロを刺して軽く炙りアツアツを食べる事でした。その後ゲームをして寒い冬の一日を楽しみました。

中央四丁目町会 「スポーツコミュニティ」開催

2月16日(日)に、大森三中で、誰にでも簡単に出来るスポーツのイベント「スポーツコミュニティ」が開催されました。当日は、ビーチバレーボール・ストラックアウト・玉いれ・輪投げ・ボッチャ・健康体操などが行われ、参加者は気持ちのよい汗をかいていました。温かくおいしい「とん汁」も振舞われて大いに盛り上がり、地域の輪が広がりました。

中央一丁目町会 ガイドと巡る馬込文士村散策

大森駅西口のタクシー乗り場の横に馬込文士村散策コースの案内板があるのにお気付きですか。また、この散策コースを解説しながら案内する「馬込文士村ガイドの会」をご存じですか？中央一丁目町会では、昨年12月1日に「ガイドと巡る馬込文士村散策」を実施しました。参加者は30名。ボランティアのガイドの方の案内で、北コースの2グループと南コースの1グループに分かれて3時間ほど、大正末から昭和初期にかけての作家や芸術家たちの史跡・旧跡を巡りました。地元に居ながら訪れることがなかった方も多く、ガイドの詳しい解説に興味を深めているようでした。桜咲くこの季節、皆さんも散策してみてはいかがでしょう。

今回巡った主な場所は、

●北コース：大森貝塚遺跡公園、尾崎士郎記念館、山王草堂記念館、薬福寺（犀星句碑）、北原白秋・山本周五郎・室生犀星などの解説板

●南コース：八景園跡、射的場跡、加納子爵邸跡、大森ホテル、望翠楼ホテル、熊谷恒子記念館、川端康成・石坂洋次郎・尾崎士郎・宇野千代などの解説板

★「馬込文士村ガイドの会」★

電話・FAX：03-6809-9616

E-mail：magomemura@yahoo.co.jp

URL http：//www.geocities.jp/magomemura/

ガイド料　1～2名：半日（3時間以内）500円/人

3名以上：半日（3時間以内）300円/人

山王三・四丁目自治会 「山王トゥワイライトパーティー」開催

昨年12月23日（冬至で早い日没の日）、区立山王公園で、寒さで黄昏に染まる空の下、「第1回山王トゥワイライトパーティー」が開催されました。一見、古き良き山王大森ホテルの再現に興じるだけのようですが、何を隠そう「真冬の夜に首都直下大地震が来た」というような時に大人も、子どもも寒くて暗い公園でいかに動けるかのシュミレーションでもありました。いざという時も皆で協力しあえる、力強い信頼が生まれ、とても良い体験ができました。楽しいダンスパーティーも終わり、寒い冬の夜、心温まる思いを胸に帰路につきました。

新井宿七丁目町会会長　安原清之様ご逝去

平成25年4月から新井宿七丁目町会会長として地域に力を尽くされた安原清之様が、12月31日逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記

1面は、村岡花子の半生と新井宿との50年間にわたる関りと馬込文士村との交流についてです。2面3面は"災害に立ち向かう場所"としての「学校防災活動拠点訓練」で大森三中での実施訓練を載せました。これから順次、山王小、入二小、入四小での訓練が予定されています。この記事を参考にして訓練に臨んで頂けたらと思います。

4面は昨秋行われた小学生ソフトボール大会で、入四ランナーズ、山王スターズがそれぞれ優勝、準優勝と活躍し、全国大会へ出場する嬉しいニュースです。

（加藤編集委員）

発　行　地域力推進新井宿地区委員会

編　集　「わがまち新井宿」編集委員会

中央四丁目町会	編集委員長	若生一順
山王三丁目東自治会	副編集委員長	荒木秀樹
中央一丁目町会	副編集委員長	齋藤碧子
山王三・四丁目自治会	編集委員	山﨑三津子
山王三丁目町会	編集委員	荒井壽子
新井宿五丁目町会	編集委員	加藤弘子
新井宿六丁目町会	編集委員	河原神風代
新井宿七丁目町会	編集委員	落合松枝

……共同編集……

監　修　新井宿自治会連合会

事務局　大田区新井宿特別出張所

大田区中央4－31－14　☎3776－5391

http://www.city.ota.tokyo.jp/omori/index.html

わがまち Araijuku 新井宿

「くもの上でほしを見たよ」

入二小1年　小橋川（こばしがわ）琉奈（るな）さんの作品

NHK連続テレビ小説『花子とアン』放送記念

村岡花子と新井宿

村岡花子の半生を描いたNHK 連続テレビ小説『花子とアン』の放送が始まりました。主演は、吉高由里子で、仲間由紀恵など多彩な役者が脇を固めていて今後の展開がとても楽しみです。

❀ドラマ『花子とアン』の原案について❀

地域情報紙「わがまち新井宿」では、平成21年4月1日号（第47号）で、今回のドラマの原案となった文庫化される以前の単行本『アンのゆりかご　村岡花子の生涯』（著者：村岡恵理、2008年マガジンハウス刊）をすでに紹介しています。この記事は、大田文化の森・情報館で閲覧可能です。

文庫本表紙

（文庫本は、2011年新潮文庫刊）

❀「赤毛のアン」は新井宿で生まれた❀

村岡花子は、明治26年、山梨県甲府市で8人兄弟の長女として生まれ、旧姓は安中はな。2歳で洗礼を受け、クリスチャンとなりました。5歳の時、一家で上京し、南品川に住居を定め、6歳で品川の城南尋常小学校に入学。10歳で東洋英和女学校に編入学し、その後10年間を寄宿舎で暮らしました。16歳の時、前年に編入学してきた伯爵令嬢、柳原燁子(後の歌人、白蓮)に導かれ、歌人、佐佐木信綱に師事。信綱の紹介で歌人の片山廣子と出会い、生涯にわたる友情を結びました。この片山廣子が新井宿(春日橋付近)に住んでいたことが縁で花子も新井宿に住むことになったとのことです。

大正2年、東洋英和女学校高等科を卒業し、大正3年(21歳)に山梨英和女学校に教師として赴任し、英語を教えました。その後、再び上京し、大正8年(26歳)、福音印刷株式会社の支社長でクリスチャンの村岡儆三と結婚し、新井宿西沼に新居を構えました。この敷地で現在、孫の美枝と恵理が、「赤毛のアン記念館・村岡花子文庫」(中央3丁目、現在休館中)を主宰しています。

花子は結婚してから75歳で天に召されるまでの約50年間、この新井宿で暮らしました。

❀妹・梅子と「大森めぐみ教会」❀

大正の終り頃、花子の妹・梅子は、北海道の開拓民の手伝いに従事し過酷な労働を強いられていました。見るに見かねた花子はすぐさま梅子を自宅に引き取り三人で暮らし始めました。その頃、敬虔なクリスチャンだった村岡夫妻は家族で旧新井宿６丁目（現、中央３丁目付近）で創業したばかりの大森めぐみ教会に通い始めました。その後、梅子は大森めぐみ教会で日曜学校の教師をしたこともあったとのこと。この教会が現在の池上本門寺のそばに移ったのは昭和20年の空襲で焼失した直後のことでした。

また、村岡夫妻のそれぞれの告別式は、この教会で盛大に執り行われたとのことです。

❀入新井第二国民学校の初代・母の会会長就任❀

娘のみどりが入新井第二尋常小学校に通っていたこともあり、昭和17年10月に入新井第二国民学校の「母の会」が創設された時、花子は会長に就任し学校・家庭・地域の橋渡しの役割を担いました。

❀戦火の中での命がけの翻訳❀

花子は戦争中、敵国文学である「赤毛のアン」の翻訳を世間に隠しながら、また空襲のたびに原書と原稿を防空壕に持ち込んで守るなど、まさに命がけで続けていました。新井宿6丁目の自宅には2度も焼夷弾が落ち、大きな被害を受けていましたが、当時の町会の人たちや警防団の助けを受けて、奇跡的に翻訳原稿や蔵書は焼失をまぬがれました。そして昭和27年「赤毛のアン」は刊行されました。

❀「道雄文庫ライブラリー」を自宅に開設❀

花子は、昭和27年夏、日本初の家庭図書館「道雄文庫ライブラリー」を自宅に開設し、近所の子供に本を貸し出すなどの文化活動を行い、これがやがて全国に広がって行きました。この道雄文庫に通った方が、「わがまち新井宿」の読者の方にもいらっしゃるかもしれませんね。

昭和42年にこの道雄文庫を閉館した際には、蔵書を入新井第二小学校と入新井第四小学校にそれぞれ約400冊ずつ寄贈したとのことです。

❀馬込文士村の一員として❀

村岡花子は宇野千代をはじめ馬込文士村の多彩なメンバーと交流していました。郷土博物館や山王会館の馬込文士村コーナーには、村岡花子の作品や写真が常設展示されていますので、是非、足を運んでみてはいかがでしょうか。

また、大田区では放送開始に合わせて、村岡花子関連の催し物を企画しており、大田区報などを通じて随時お知らせするとのことです。　（敬称略）

〈参考文献『アンのゆりかご 村岡花子の生涯』〉